

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

特別編集号 1990年3月発行 福岡県専門員連絡会 まなこ編集委員会 印刷 コロニー印刷

「発行にあたって」

この「まなこ」特別編集号の発行にあたり、各社協より送付頂きました広報誌から、編集委員の独断で掲載する記事を選ばせて頂くことにしました。しかし、各社協とも各々違った広報誌への取り組みが見られ、どの広報誌、どの記事を選ぶが大変苦勞しました。

しかしながら、その中でも、記事の内容や活動が「これは」と思えるものを選んでみました。

今後の広報誌づくりに役立てて頂ければ幸いです。

最後に、紙面の都合上、僅かしか掲載出来ませんでしたことをお詫び致します。

○視力障害者とボランティアによる料理講習会



11月15日(木)、10時から健康センターで目の不自由な人達のための料理講習会が開かれました。

健康課の保健婦さんや、点字ボランティア(蛍の会)の方々によって点訳された献立表と調理テキストを使って、講習が始まりました。

視力障害者も受講に熱が入れば、助手役のボランティアも包丁使いの介添に汗だくでした。出来上がった料理を皆んなで囲んで食べながら会話に花が咲きました。

小郡社協 「おこおりふくし」第53号 平成2年1月1日

築 両ブロック



写真は尾迫の吉瀬勝巳さん(82才)と後で見守る奥さんのミキさん

元気な人も

ある日 思いがけなく

体の自由を失った

病の床にたかねばならない

ことがある

本人も家族も

再びもとの体を取り戻すべく

たゆまぬ努力を重ねる

ホームヘルパーは

いつも優しく でも

時には厳しく

再起への手伝いをする

家族の愛

隣近所の人たちの愛

いろいろな愛情が

病や障害で苦しむ人たちの

心の支えとなる

北野町社協

「はままち社協だより」

第9号 平成元年9月20日

あ と が き

♪ 大きい子、チビスケ。♪ 泣き虫、強い子、お日様は、みんなみんな、同じに照らしてる。♪

月いじめっこ、甘えん坊。♪ ぐずぐず、あわてん坊。♪ 誰だって、みんみなみんな、少しづつ伸びていく。♪ (NHKおあさんど二緒より) —と、ふっと何げなく子供が聞くカセットに耳を傾けた。うーん、なるほど! 童謡も満更べかにできない。この歌のように、本当にみんみな太陽の光を浴び、少しづつでも伸びているだろうか? どうも、これは、子供だけの世界のようない気がしてならない。

さて、この歌を福祉に置き換えて考えることにした。みんながみんな福祉の手を浴びているだろうか? 健康な人も、病人も。子供も、老人も。そして、裕福な人も、そうでない人も…。何だか福祉が片寄ってはいないだろうか? 本来、福祉とは、全員に与えられなければならないものだと思えるが…。しかし、健康な人が受ける福祉とは? と、なかなか難しいものである。私は「借りたら返そう。自分がしてもらったことは、誰かに返そう」という言葉が好きだ。誰にでも老いは必ずやってくる。私もいつ障害者になるかわからないし、いつ、母子家庭になるかわからない。今のうちに、お世話できることは、してあげよう。と、頑張っている今日このごろです。

北野町社協
「社協だより」
第7号 平成元年6月30日

親父さん

昔から「わいのもの代表を」「地震、雷、火事、親父」と表現されてきました。地震と雷はよりもありませんが、火事は入災、自分たちの注意で充分防ごうとができますね。それにしても現代の親父感覚はどうか。どう、どうも「わいのもの代表にはあてはまらない」と思われてはなりません。

「わいのもの代表に表現されている親父には大事な意味がこめられていると思いません。家庭での子供のしつけ、教育にはよい意味で親父のひと言は大変な効果があつたと思いませんか。

今はカツヨク親父さんが多くなり、もうかつて、家庭での父親の座は、母親の方にゆずらねばと思われることがしばしば、でもそれがいい、いいというではありません。

最近の女性は、子育ても本音で語りナマの自分をさらけ出すことにはめづらないようです。今、オバタリアンという新語を耳にすると、オシタリマンに比べてオバタリアンの方が、子ネルキマシエであり、また社会の不正に対しても、ストップボタンがあるといふ、この世の男性からのお自覚で、ようやうか。

浮羽町社協
「社協だより」
第20号 平成元年3月15日

“ふれあい”の輪をひろげよう

竹野校区青少年健全育成の集いから

去る二月二十五日(土)竹野小学校で、竹野校区青少年健全育成の集いが開催されました。この催しは、竹野校区青少年健全育成協議会が主催したもので、竹野に住むものみんなが「ふれあい」の輪をひろげ、竹野の子どもたちを健やかに育てようという目的の集いでした。

当日は、PTA、婦人会、老人会の協力で、盛り沢山の行事が行われました。

まず、授業参観の形をとり、子どもたちと一緒に伝承遊び。親子三世代が一緒になって昔から伝わる遊び道具を作って遊びました。子どもたちは、老人会とPTAの方に作り方や遊び方の指導を受けました。

各学年の伝承遊びは次のとおりです。

- 一年生 あやとり遊びと風船に花の種をつけて飛ばす
- 花いっぱい運動
- 二年生 お手玉遊び
- 三年生 竹笛遊び
- 四年生 竹とんぼ遊び
- 五年生 たこあげ遊び
- 六年生 竹馬遊び

どの学年も遊び道具を習って作っているようすは、大人と子どもが寄り添いながやかな雰囲気でした。

伝承遊び終了後は、全体会と講演会。「佐賀にわか」で有名な

田主丸町「たぬしまる」第37号 平成元年5月1日



マンガの本

汽車の中や若い人達がまるで憑かれたようにマンガの本に読みふけっているのをよく見かけます。

よくよく観察してみますと、何んとまあいろいろなマンガの本があるものですね。大学生向、高校生向、中学生向、小学生向、児童向、男の子、女の子、本巻に種々雑多です。

元来マンガの本には、即興の本という先入観がありその笑いの中心時代を風刺して、庶民の不満が即座に消化するようには痛快さがあつたり、それは面白くして居たり、笑って楽しめる好書です。

しかし中には残酷や若狭にはまともな笑えないものがあり、マンガはあくまで漫画であつてはいけません。

啓蒙的でそのおもしろいマンガこそ、眼が覚めて字が読めない若狭にも最適、何も若い人向だけにせよ、若狭のマンガが作られてもいいのではなから、思われてはなりません。

そしてマンガの本のもつ社会への影響力も無視できないことをつけくわえたい。

浮羽町社協
「社協だより」
第20号 平成元年4月15日

を筑紫美生子先生が招かれ、先生の体験を通した「この道しかなかった」が講演されました。筑紫先生の多難にとんだ人生に、会場のみなさんは大変な感動でした。最後に楽しい集いにしようとしてPTA、婦人会の方々にやるバザーが開かれ、おにぎり、団子汁、フランクフルトなど盛り沢山の用意がされてあり子どもたちにも大ウケでした。また、この他に老人会の方と子どもたちがチームをつくり、ゲートボール大会が行われる予定でしたが、当日は雨のため中止となりました。しかし、校長先生のお話によると、当日までの練習でお年寄り子どもたちのふれあいが盛んに行われ、試合はできなかったものの十分目的は達せられたということでした。



きかんになる石けんづくり

吉井町社協では、昨年より私たちの身近な問題である環境問題について取り組んでいます。

特に「合成洗剤」については、単に環境汚染に止まらず、生命にも関わる問題として、その追放と石けん使用の普及を推めています。その一環として行っている「石けん作り」



吉井町社協「福祉の広場」
第66号 平成元年3月3日

老人介護手当の意義

昔から親を看とるのには子の責任であるという人間本来の考えが私たちの心根にしっかりと根づいていないから、現在の私たちの生活環境は、必ずしもそのとおりにはいかないこと、のほろが多い世の中です。

今、老人福祉施設はどこも満員の状態です。

もともと福祉施設は家庭が機能し得なくなつたため、止むを得ずにつくられたものであるというところを考えると、むしろこれからは家庭がもっと機能するより努力することも必要なきこととして、より、

家庭の介護機能のなかには労力的な問題もありますが、何んといつても経済的な面の問題が大きいと思われ、

むしろ福祉施設に交付される措置費のようなのが介護家庭に支給されたこと、つまり家庭の機能回復に大きな効果が期待できると思いませんか。

町の老人介護手当支給の意義も奥深く考えればこの辺にあるのではと思われ、

浮羽町社協
「社協だより」
第216号 平成元年11月15日

老後のために何かしてみようか—そんなお気持ち下さい

おかわりあしませんか

忠宮三区公民館の声かけ運動

地道な、絶やさぬ声かけ訪問
～ 思いやり・支えあいのある地域づくり ～

忠宮三区公民館ではその活動の一環として、一人暮らしのお年寄り宅、老夫婦二人暮らしのお宅などを対象に、公民館長や公民館役員、隣組長さんが朝晩2回声かけをしてあります。
中には元気でやっつけいらっしゃる方もおられるので、病弱な方々を重点においてあります。
だれがだれそれ宅に行かなくてもならんとは決めておりませんが、入れかわり立ちかわり訪問する、ということになります。

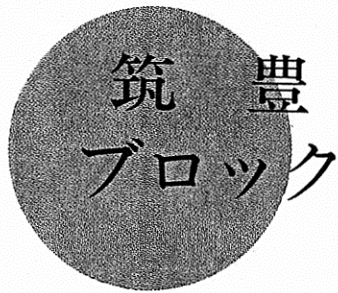
ニュースで「亡くなって1週間もして発見された」などと聞く胸が痛みます。トイレや入浴中に倒れると分りにくいし、当人もからだか冷えて死に至りやすいよう

もうひとつの運動会

私は先頃、養護学校の運動会に行きました。その日は、近隣のほとんどの小学校で運動会があつて日でもあり、なかには、姉妹で養護学校と小学校と重なり、おとうさんとおかあさんがひとりずつ子供の運動会に参加されている家庭もありました。
その運動会は、父母がバラバラとテントに座っていて、どこからでも自分の子はあの子だとわかり、ひとりひとりの子供たちに合わせた内容のものでした。足の不自由なI君は、毎日の学習(訓練)で少しずつ歩けるようになってきました。今日はそのことをおとうさん

だれもが住み良い町づくりを進める会

「キンモクセイ通信」第一号 一九九〇・一〇・一
んやおかあさんやみんなに発表する場でもありました。
在宅で訪問教育を受けているSちゃん、今日は学校のみんなと一緒に過せる楽しい日でもありました。
そして親も先生も私たちも、みんな力を合わせて手をつなぎ、教えたり教えられたりしながら一緒に踊る楽しい運動会でもありました。
私はこの子供達が養護学校を卒業しても、社会のみんなから大事にされ、人として生きていける、そんな社会であってほしいと願わずにはいられませんでした。(仲)



豊築ブロック
豊築ブロック
豊築ブロック

学校教育

「ゆとり」の時間で

「手話を学ぶ会」を開催

行橋小学校(福祉協力校)

「指からこころへ」をテーマに、第一回「手話を学ぶ会」が一月九日(火)に開催されました。京楽手話サークル「つくしんぼ」、京楽ろうあ福祉協会の会員五人が指導、言語聴覚力障害者の人たちの交流を通して、お互いの理解を深めました。福祉教育協力校として二年目の活動。

「幼少時から福祉教育に」

幼少時から福祉教育にむけて取組む配慮が重要です。地域福祉活動の核心がボランティア活動にあることから、福祉教育は学校、地域社会において、つねにボランティアの心をつくることに目標がおかれなければなりません。その心は、人間は同じ時代に、共に生きていく」という認識を基礎に、その心を養成することが必要です。

行橋市社協

「ゆくはし社協だより」

第86号 平成2年2月1日

「小さい時から福祉を」北欧あたりではあたりまえになっています。日本の学校教育の場にもどんどん取り入れて欲しいと思っています。

二つの声のドッキング

匿名

この課題ほど聞口が広く、奥行きが深く、そして今日的に重大な課題であり、尚且つ、三年、五年と歳月の経過につれて、その内容の肥大する課題は少ないと考えます。でも小さな足許からこの課題に挑戦しては如何でしょうか。

福祉とは「多くの人々の幸福」と理解の上で、その幸福は各人の努力によって獲得するものと、「与え」「与えられる」「社会人のお互いの社会参加の過程の中に充足されるもの」との二面あります。即ち「ギブアンド「テイク」のシステムの過程で「福祉のギブ」の障害の方は、国、県、市町村、色々なグループ、個人等であり、「福祉のテイク」の側の方は、色々なニーズを持つ家庭、個人等であり、ここで個人一人一人は福祉の担い手、受け手の二面を備えます。今日の担い手は明日の受け手であり、今日の受け手は明日の担い手となり、輪廻転生の世の様を現わしています。社会福祉の出来る人は、今の内に貯金を稼ごう。社会福祉の受け手は、心安らかにお願いしよう。これが社会福祉、地域福祉の出発点であります。福祉の芽生えです。その為には、私は社会奉

カンテラ

障害者のあらゆる権利を保障していく中で、まずなんといっても就労・雇用保障があります。障害者にとって、就労・労働はたんに日常生活資料や資金をうるためのものとしての重要なものではありません。障害者が社会的に自立するための経済的自立の基礎をなすものとして大切であることは言うまでもないことですが、それと同時に障害者にとって働くことも、同時に就労・労働を通して障害者が仲間をもち、多様な人間関係や社会関係を結ぶなかで、人間としての全面的な発達力が養われ、獲得される、その原動力ともなるというのです。たとえば、義務教育を終えたが、高校教育進学の道を閉ざされる障害児が、今に残される現状があります。学校教育で取得した生活自立のための諸能力を再び喪失させてしまいうだけでなく、また、障害者であるがゆえに十分な教育を受ける機会に恵まれません、このことが学歴偏差主義の社会では就労・雇用条件の切り下げ、劣悪さに直結します。逆に重度障害者が共同作業所での仲間たちとのふれあいの中で、生きいきと成長、発達してはいる多くの実践例が示すように、障害者にとって就労・労働保障は生存的基本権であります。(鈴)

県内各地で共同作業所が出来ていますが、その根底はこの文章ズバリではないかと思えます。

直方市社協通信

「少数者」

第65号 一九九〇・一〇・一

仕能力として何が可能か?例えば、
①ネタキリ老人等の話し相手ができる。
②外出の介助ができる。
③家事の手伝いができる。
④本の読み聞かせができる。
⑤点字や手話ができる。
⑥とにかく自由な時間がある等々。
⑦一人暮らしなのでさみしい。
⑧とにかく自由な時間がある等々。
⑨一人暮らしなのでさみしい。
⑩この奉仕のエネルギーと二つの要求を社協に登録して、社協はそれぞ

れぞれの条件整備をした上で、「二つの声」をドッキングさせて、地域住民の福祉の参加協力の実態を創設する。その福祉活動推進の過程で「福祉ってな〜」は町民の暖かいまじわりの中に、ほのぼのと胸に浮かぶことでしょうか。

みんなの声

テーマ

「福祉ってな〜」

刈田町社協

「かんだ社協だより」

No.33 一九九〇年二月二十五日



福廣洋子のなごも

私が中学生の頃だった。いとこが妹達をスケートに誘いに来た。家に残った私と両親は、ただ、黙ってテレビを見ていた。重い空気が流れるのを感じながら、何も気にしていないふりをするのが精一杯で、その日は早々と布団に入り泣いた。帰って来た妹は「姉ちゃんごめんね」と一言いった。スケー

トがでできないのが悲しかった訳ではなく、いや、それもあつたかも知れないが、いろんな思いが一緒になり淋しかった。
こんな経験を何度もくり返しながら妹達と私は、それぞれに障害のことを考えている気がする。というよりは、障害を持つ私がいるくらしが妹達にしてみればあたり前前で体で感じながらかも知れない。今でも障害者に対し、ぶつかれることもあるが、それでいいと思うし、それが本

ぶつかりながら

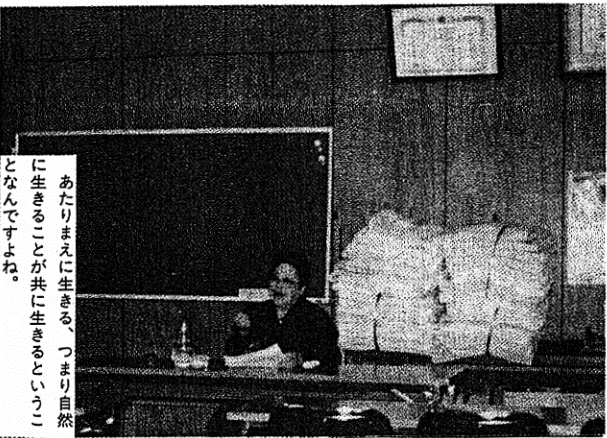
当ただと思う。このぶつかりがなければ、変に気を使ったり使われたりになってしまう。これは他人との関係でも同じで、つらいなあと思うこともあるけど、いろんな人とのぶつかりが、お互いを認め

直方市社協

「少数者」

第65号 一九九〇・一〇・一

心の顕微鏡で 子どもの成長をみる



あたりまえに生きる、つまり自然に生きることが共に生きるということなんです。

第一福祉塾の五回目が「子どもの成長をみる」として、講師に町立保育園の後藤美智江園長をむかえ開かれまし

た。子どもたちの何気ない言葉や行動の中にとて大切なことが隠されていて私たちが教わることがたくさんあります。しかし、日常子どもの人権を尊重してかかわることの大切さを考えさせられる二時間でした。

あとがき



わが町にもいろいろな人がいます。幸せな人、さみしい人、病気の人、身体が不自由な人、ひとりぐらしのおとしより。そんなみんなが気軽に話し合い、助け合える町。子どもやおとしよりにあたたかい一言を、身体の不自由な人や、困っている人への、ちょっとした手助けを、通りの掃除や花いっぱいづくりを。これはだれにでもできることです。桂川町に住んでいるみんなの幸せを願い、ひとりひとりが力を出し合う、そこに福祉の町、桂川が生れると思うのです。(横)

いつも言われていることだと思います。けれど、一番大切なことなのは桂川町社協「けいせん社協だより」第58号 平成2年1月16日

稲葉町社協「いなつき社協」第14号 平成2年1月15日

熊本市の諮問機関、熊本市長寿社会対策研究会(小寺清孝会長、十八人)は六日までに、老人介護などに民活を導入した第三セクター方式の「熊本市おせわ公社」設置などを盛り込んだ中間提言をまとめ、田尻靖幹・熊本市長に答申した。画一的な公のサービスに民間サービスをとり入れることで、高齢化社会を豊で活力あるものにしよというもの。こうした方式は東京・武蔵野市で実施され

「おせわ公社」はソーシャルワーカー、看護婦訪問のほか警報装置、家事、介護、食事、洗濯、外出付き添い、大掃除、力仕事などのサービスを請け負う。高齢者やその家族の経済的能力、および身体状況などに応じ、基本的には有料サービスとする。また不動産は持っているが現金のない利用者については、不動産を担保に生活費などを貸し付ける福祉資

老人介護に 「おせわ公社」

熊本市長寿研提言

民活導入、九州初

ており、実現すれば九州では初めてとなる。同研究会では①公的サービスだけでは、多様化するニーズにこたえることが難しい②財政能力に限界がある③ボランティア依存ではサービスの継続が不安定で、特に生活の質の工場や快適さを求めるニーズについては、民間サービスの利用も効果的のとして「準公共的な福祉供給システムの確立が望

金貸し付け事業も展開する。職員体制はソーシャルワーカー、看護婦、登録ヘルパー、顧問弁護士、嘱託医で構成。老人ホームなど各専門機関とも連携し、情報交換、相互扶助に努める。特に民間に依存するサービスについては、自主規制や行政指導で内容を確保、職員の資質もチェックすることとなっている。

「おなが社協だより」
第18号 平成元年10月10日

【私たちがもっとボランティア活動をやって福祉に力を入れなければと思います。そのためには、多くの人に呼びかけて一人ひとりが協力し合うことが大切ではないでしょうか?】

稲葉町社協「いなつき社協」第14号 平成元年4月15日

高齢化社会を支える若者にボランティア活動の意識や重要性を理解してもらうことを目的に開催した「高校生ボランティア」に稲葉町の高校生が参加し、施設や共同作業所などの訪問したり、実際に車イスやマスクをして、飯塚市内の商店街で買物や食事をするなど障害を持つ人の立場を体験しました。三月四日と十一日は、「障害を持つ人とのふれあい」をテーマに「はぐるま」に「はぐるま」を体験しました。三月七日は、車イスやマスクで、飯塚市内の商店街で買物や食事をするなど障害を持つ人の立場を体験しました。三月十四日と二十一日は、「障害を持つ人とのふれあい」をテーマに「はぐるま」に「はぐるま」を体験しました。三月十七日は、4日間のスクールに施設や共同作業所を訪問し、スクールの学習を体験しました。

また、こうして高校生二十九名が、今後活動を進めて行きたいと、高校生ボランティアサークル「トムンキー」を結成し、今後の取り組みについて計画中です。

現在「トムンキー」のメンバーは、稲葉高校の生徒さんたちだけです。ただ、他校の生徒さんでもかまいませんので、どうぞ仲間に入って一緒に活動してみませんか。

問い合わせ先 稲葉町大字岩崎一丁目番地の三社会福祉協議会事務局 四二一〇七五一

—地域で助け合い、支えあうために—

やがてあなたもお年寄り…… 温かく見守り防ごう孤独死—

●あなたの近所では……
愛ちゃん「お母さん山田のおじいちゃんが今、救急車で運ばれたよ」
お母さん「えっどうして……」

愛ちゃん「近所の人の話では朝家の中で倒れたのを回覧板を持って行って、さつき見つけたんだって」

お母さん「山田のおじいちゃんは3年前におばあちゃんを亡くされて一人暮らしで、最近病気がちだったからねえ」

愛ちゃん「一人暮らしのお年寄りは急病のときなどは誰もいれないから大変だよ。私達でなにかお手伝いできないのかな？」

(あるケースから)

一人暮らしのお年寄りが一番不安なのは、夜中に発作や急病で倒れ誰にも看取られずに寂しく死んでいくことです。

同じ町内に住み、朝・夕顔を合せる隣近所の誰かが見守り気遣ってくれると感じるだけでも、一人暮らしのお年寄りは安心して生活できるのです。

●このことを踏まえて、筑紫野市においても今後高齢化に伴い地域福祉のネットワーク創りの強化が必要とされてきています。

筑紫野市社協
「ちくしの社協だより」
第26号 平成元年6月15日



星くず

親が子どもと一緒に、教室の一番後ろで机を並べるようになってから四カ月が過ぎました。今という登校拒否症とでもいうのでしょうか。親と一緒にないと学校に来れない。だから当然、親が来れない時は欠席がつづく事になります。

その子は、小学校に入学するまではとても活発で、幼稚園では、先生が留守の時は先生の変わりをするくらい、しっかりした女の子であったといえます。それが、入学と同時に親が事業に失敗。多額の負債を抱えてから、歯車が狂い出したようです。親は内緒にしているつもりでも、子どもというのはとても敏感に事の成り行きを察するものです。「私が学校に行っている間に、二人ともいなくなるんじゃないか」と、子どもなりに心配し、子どもなりに不安な毎日なのでしょう。

クラスの父兄会が何度か開かれ話し合いがもたれましたが、結局、明案はでないままでした。そして、教師一年生の先生もとうとう万策尽きたのでしょうか。ある日、涙を浮かべながら子どもたちにむかって「勉強遅れるかもしれないけど、毎朝、みんなで迎えに行こう」となげかけたといえます。

さて、その事があった次の日から、一人の少女が毎朝、今までよりも一足早く家を出るようになりました。幼稚園から一緒だったというその子は、母親にこう言ったといえます。

「わたし、おもうったいね。学校とはんたいほうこうだけど、朝、わたしひとりむかえにいけば、みんなべんきようおくれなくてすむでしょう——と。」

「〇〇ちゃん、どうして学校に来んしゃれんとかいなね。どうしてか、あなたが聞いてあげれば」と母親。

「そんなこと、わたしがきくようなことじゃないもんね。ほんにんがいちばんわかっつとんしゃあと。いつかは、じぶんでかんがえんしゃあよ」と、その女の子。

まだ、親と一緒に登校はできないそうですが、この女の子の意を決した行動が、少しづつ本気で周囲を動かし、いい方向にむかい出したといえます。子どもも、昔の明るさを序々に取り戻しつつあるといえます。父兄が何度となく集まって話し合っても、解決への道すら出なかつたのはなぜでしょうか。学校という大きな組織の中での、小さな小さな出来事かもしれませんが、考えるべきは多いものがあるようです。

「過保護」というどうしようもない甘えが子どもにあり、その親にもある事は否めません。学校の取り組み自体にも頭を傾けたくなるのがいっばいですが、今回はそれはさておき、「わたしひとりか……」と言った、ある少女の言葉をもう一度考えながら、今年最後のペンを置きたいと思えます。

よい年をお迎えください。

—若大将—

宇美町「広報うみ」第218号 平成元年12月15日

(社協マスコット) まみちゃんへ

まみちゃん、しゃきょうで、はたらきはじめて、もうすぐ1ねんになるね。

はじめのころは、したばかりむいて、はなしかけても、ちつともへんじがかえつてこない。なんにちも、まみちゃんのごえをきいたことがなかったね。

しゃべれないのかな？ いろいろのかなと、とてもしんばいしたよ。どうしたらまみちゃんのごころのとびらがひろくのかなと、いつもかんがえていました。どうしていいかわからないものだから、まず、わらいかけよう。いつもまみちゃんをみるときは、とびつきりのえがおになろうとおもった。

なんにちもたつて、えがおのへんじがきたときは、むねがきゅーんとなって、なみだがでそうだったよ。

そのとき、てんしのようにみえたよ。

あとがき

昨年、中国、東欧諸国では、自由を求めて民主化要求の波で揺れ、地球は一つの理想の時代を迎えようとしております。

争う事より、共に助けあい豊かな心の人間愛を求め平和な時代になりつつあります。

弱き人々に、温かい手を差し伸べる手助けとして、福祉に携わる社協職員は、本年も一生懸命頑張りますので御協力をお願い致します。

編集委員

- 佐藤 克司
- 前浜 芳郎
- 高 壽一
- 高月 薫子
- 諏訪 潤子



おばちゃんより

春日市社協
「しあわせ」
第57号 一九八九・二

春日市社協
「しあわせ」
第61号 平成2年1月

投稿文より

がん告知に思う

矢野 勉

最近新聞テレビなどでがん告知問題が騒がれたが、人は病気に限らず、不幸なことすべて他人ごとのように思っている。がんにあって初めて「どうして自分が……。」とだれもが思う。もしがんになり先生から

「あなたは〇〇がんです」
 「そうですか、じゃあがんはどのくらい進んでいますか」
 「もう末期であと三か月くらいでしょう」と告知され

「ありがとうございました」と素直に先生と会話が出来ますか？
 いくら知る権利があるといってもこれは過酷であろう。

私は四十九歳の夏がんとセンターの診察室で

「先生がんですか」
 と聞いた。

「別に何かありますか」
 「じゃあがんでしょう」

先進地情報 秋田県の取り組み

昭和六十年以降、宗像市で毎年発生している一人暮らし老人や痴呆性老人の孤独死や事故死は、決して本市だけで発生しているのではありません。高齢化社会の進展に伴い、今や全国的にどこでも開ける事件・事故です。

秋田県では、昭和五十五年から地域ぐるみで進める福祉の街づくり運動として「地域福祉のネットワーク活動」に取り組んでいます。この運動を推進するきっかけになったのは、介護に疲れ果てた娘が、寝たきりの母を線路に横たえ、自分も入水自殺をするという悲惨な事件でした。

秋田県では、こうした問題をひとごととして見すぎず、地域全体の問題として、誰もが安心して暮らせる地域社会を創造しようという姿勢が地域福祉のネットワークづくりにつながりました。

活動内容は、近隣住民、ボランティア、青年会や婦人会等と民生委員・ホームヘルパー・医師・保健婦・施設等の福祉・保健・医療関係者が手を取り合い、役割分担をし、要援護者のより身近な所で日常的に援助活動を展開するものです。

秋田県の活動は、「一人の不幸も見逃さない」ということをモットーに、積極的な活動が展開されています。

本県においても、久留米市や飯塚市において積極的にネットワーク活動が展開されています。

宗像市も、今後高齢者の孤独死や事故死を二度と繰返すことのないよう支援活動を拡げ、誰もが安心して暮らせる福祉の里づくりを実現するために、愛のネットワーク活動を強力かつ計画的に推進していくこととしています。

その話が終わらぬ内、頭に血がのぼって顔が熱くなるのがわかる。入院手続きを終え女房と車で高速を走る。二人とも何も話さない。頭の中は走馬燈が三つも四つも廻っているようだ。人生五十年過去と未来が、頭の中はあれやこれやでこた返してある。

あとで聞いた話では、当時喉頭がんの治療率は九十二%、だから先生は早く手術と言ってくれたそうだ。

毎年病院の総会で先生が、「がんにかかる率は、あなたたちが一番多い」と言われる。もし、今転移して、どこかにがんが出来ていても、自分はそうじゃないかと思っただけで、聞きたくない。

テレビなどでがんに勝ったと報道されるが、がんに精神力も、根性も、不死鳥も、金も、慈悲も、神も、仏も勝てないと思ってしまう。

先生から「がんです」と言われて、あなたは冷静に「そうですか」と受け止められますか？

古賀町社協

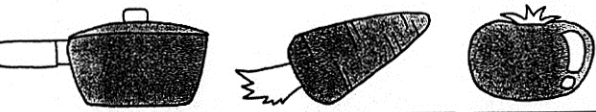
「古賀町社協だより」

第59号 平成元年8月1日

第3回 おじいちゃん料理教室

おじいちゃんの手料理がうまい!!

食は健康の基本

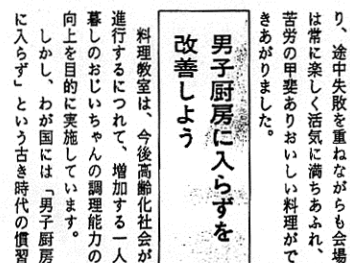


男子厨房に入らずは、もう古い!



おじいちゃんの手料理づくり奮戦記

調理実習のメニューについてはなるべく手間暇かけずに、日常的に、おじいちゃんにも作れるものを……、内容を決定しましたが、日頃料理をしたことのないおじいちゃんたちにとっては、悪戦苦闘の連続でした。



男子厨房に入らずを改善しよう

料理教室は、今後高齢化社会が進行するにつれて、増加する一人暮らしのおじいちゃんの手料理能力の向上を目的に実施しています。しかし、わが国には「男子厨房に入らず」という古い時代の慣習

が今だ根強く、料理のできない、もしくは料理をしないおじいちゃんがたくさんいます。

奥さんとの死別、子供との別居などの理由によって一人暮らしを余儀なくされたおじいちゃんの食生活には、大変な苦労があります。中には、何か食べていられないというところで、インスタント食品や缶詰を主食にしている人もいます。人の健康は「食」によって支えられています。古き慣習によって、一人暮らしのおじいちゃんが健康な生活を送れないということは、非常に悲しいことです。

今は、「より健康に」、「より楽しく」、「より長生き」のできる時代です。おじいちゃんも、その他の男性も、古き時代の慣習にとらわれることなく、自分の健康を維持するうえに必要な「食」に関する知識と技術を、身につけてはいかがでしょうか。



宗像市社協

「社協だより」

第23号 平成元年10月1日

障害者の働く場づくり

運動はいかに

わかたけ共同作業所の現状から

全国に2、200カ所、約2万5千人の障害者が現在、共同作業所に通って働いていると聞かれています。共同作業所は、「働きたくて働けない」、そんな障害者の働く場づくり運動として、障害者自身、また親たちの立ち上がりによって取り組まれたもの。筑後市のわかたけ共同作業所も同様の経過でつくられてきましたが、そこには様々な問題を抱える実態があります。働く場を持たない障害者の働く場づくり運動として、その意義が驚くほどますます高まる中で、これらの問題をいかに解決していくかが課題といえます。以下、わかたけ共同作業所で指導員をする山口さんの報告を。

現状と課題

指導員 山口千恵

現在、わかたけ共同作業所には、11人の仲間(通所者)が生きがいの場、働く場として毎日通ってきています。作業所ができる前までは、地域の中学校、または養護学校を卒業し、在宅でテレビが友達、という仲間もいました。現在では、働くことの喜びや自信を感じながら、仲間同士やその他多くの人々との関わりを持つ中で

表情や言葉も増えてきています。作業の中心は、企業の下請けで、単純作業が主、ボランティアの方々の手伝いを含めても、生産量が低いために毎月の給料も3、500円という少なさです。企業からいまだく工賃は、すべて仲間の給料になりますが、同じ働く者としては頭痛の種でもあります。

このため、工賃の期待できるオリジナル(独自)製品づくりに取り組みたいと考えています。が、いろいろな条件があり、その開発に頭をひねっています。作業場としては、現在市総合福祉センターの一室を借りて作業を行っていますが、始めは人数も少なく、広く感じられた作業室も、11人の仲間と2人の指導員、それに協力が入ると、ボランティアの人数が入ると、もう足の踏み場もないという状態です。

オリジナル製品づくりにしては、場所がなく、できない状態です。また、仲間の発作が起きた時の

筑後市社協「ちく二社協だより」第70号 平成2年1月

静養場所もなく、みんなの作業する部屋に横になっていたりという状態です。運営資金の問題としては、今は国・県・市・共同募金・自己負担金が主な資金源ですが、公的補助金は仲間の程度や人数には関係なく低額で、2人の指導員の給料で精一杯といったところ

です。そのため、コンサートやバザーなどの事業収入や、賛助会員制の導入などによってなんとか運営しています。あらゆる障害者の働くことのできる場として共同作業所の役割を考えると、人数の増や、重度者の入所に対応できる財政的な裏付けがほしいものです。全国では献身的な運営委員会とが一体となって様々な取り組みを繰り返してきています。今後のわかたけ共同作業所運動を考えると、動ける運営委員会づくりと、多くの支援者との結びつきが、今後の運動を拓けるための重要な課題のように思



シリーズ 国際障害者年 87

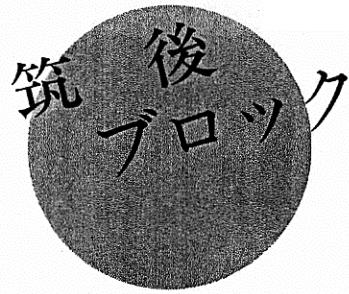
言葉を書かないために、こちらの意志を押しつけがち。行動の中にかくれている意志を見極めたい。

「自閉症児の理解は」

多動やいろいろな特異な行動を示し、周囲の人々との関係づくりが難しいとされる自閉症児。市内にも数人、この障害を持つ子どもがいますが、そのいずれもが、家族や学校、地域社会の中での対応に問題を抱える実態があります。今回は、そんな自閉症児を持つ母親に話を伺いました。

「言葉がほとんどなく、視線が合わない。いろいろなこだわりがあり、多動。自閉症です。」と医師から告げられたのは子どもが四歳の時。

動き回る子どもを見ながら、一緒に遊ぼうとしても、気分がいい時以外はのってこない。子どもの興味に合わせて短かい時間でも楽しく過ごすように心がけました。



重度身体障害者のホテル実現

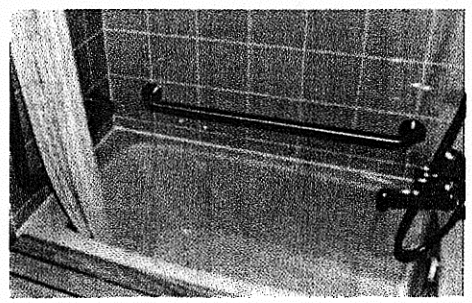
市内で初めて……萃香園

車いすの重度身体障害者が利用できるホテルが、久留米市内に初めて実現しました。すでに利用客の受け付けを始めています。

久留米市楠原町の萃香園ホテル(川村安正代表社員)は、昨年12月から6階にある広いリビングルームとベッドルームからなるツインの特別室の改造を行ってきました。宿泊者の邪魔にならないように工事を進めてきたため時間がかかり、やっとこのほど完成。車いすでも安心して宿泊できるよう特

別室にスロープをつけ、トイレ、ふろには、手すりを取り付けました。エレベーターにも障害者専用のスイッチを新設して、安全面の配慮も図っています。総費用は625万円。うちの市の助成金は300万円。

昨年10月、久留米市内で開かれた身障者大会で、障害者が泊れる施設がなかったのがきっかけとなり、市が「重度身体障害者宿泊施設整備補助事業」として市内のホテルや旅館業者に呼びかけ、同ホ



手すり付きバス

テルがこの趣旨に賛同して施設の改善に踏み切ったものです。改造された特別室は普通なら1泊2万8000円ですが、障害者の利用は2人で1万4000円。1人なら7000円です。事前に予約が必要で障害者手帳をご持参ください。問い合わせは、35・5

久留米市社協「くるめ福祉」第52号 平成元年7月

幼稚園、小学校では、すんなり入学(園)はできたものの、多動が理由で、親が何らかの形で関わらねばならない状況が長く続きました。これまでの間、子どもの表面的な変化は見られぬものの、内面ではつきり変化してきました。小さい頃は親の意志が通じにくかったものの、ようやく幼稚園の頃にはこちらの意志がいくぶん通じるようになって関わりやすくなりました。最近では、自分の意志が出てきたようで、単にこちら本位の指示だけでは動かなくなってきました。

今思うことは、子どもの気持ちを尊重して、その意志を見極めたいと思っています。日頃は言葉を書かないためにこちらの意志を押しつけてしまいがちですが、本人の何らかの形で出てきた意志を、何とか理解しようとするこちら側の姿勢が大事なような気がしています。約束事や規則制は、はみだしてしまいがちな子どもですが、なるべくそれをダメと言わずに、おうように対応してほしい。時間をかけてつき合い方をみつけていってほしいと思います。

母親の思いを、子どもに関わる受け入れ側の方でいかに汲みとっていけるか、そこに課題があるように思えます。



1月下旬に、「点訳パソコン」を導入します。これは、普通の文字を、目の不自由な人たちが使う「点字」に変えることができる機械。

ボランティア連絡協議会が、日本電気通信普及財団から寄贈を受けけるもので、県内では二番目の設置となります。

この点訳パソコンの導入は、これからの点訳図書、点訳文書づくりに相当の威力を発揮するものと思われれます。一回機械に打ち込んだものは何回でも引き出せ、また何枚でも印刷ができる。さらにパソコン通信を使えば、全国で打ち込まれた文書が即座にこの筑後市で点字になって出てきます。

点字の広報づくり、電話帳づくり、また最近話題の点字受験問題で言われる教科書づくりなど、大いに期待されます。

ところで、点訳活動に取り組むむつみ会では、この体制づくりのために、今年4月から点字ボランティアの講習会を計画中です。

点字に興味のある人や、機械に強い人の参加をぜひお願いします。(陽)

筑後市社協「ちく二社協だより」第70号 平成2年1月

新企画

**ねたきり老人を抱える
家族・介護者らのつどい**

「第1回ねたきり老人を抱える家族・介護者と支援者のつどい」(久留米市社会福祉協議会主催) 写真Ⅱが9月11日と同18日の2回、久留米市長門石1丁目の市総合福祉センターで開かれました。高齢化社会の急速な進行にともない、老人問題は他人ごとではなくなっています。市内には、ねたきり老人は約350人いますが、家族や介護者は、老人の介護に明け暮れ、地域社会から孤立しがちで、悩みを抱え込んでしまうケースが少なくありません。こうした家族らが集まり、話し合うことで悩みを解決する糸口をみいだそうと、初めて企画されました。

つどいには2回合わせて家族や介護者、ボランティア約100人が参加しました。会場には福祉機器が展示され、市社協や久留米保健所、市福祉課などの職員



久留米市社協「くるめ福祉」第53号 平成元年11月

たちが、ねたきり老人の介護の心構えや、参加者をモデルにしたの介護方法などを指導しました。このほか老人介護の映画や家族らの体験談の交換などがあり、初回は内容は充実していました。市社協では「つどい」の成果を踏まえて、家族らの組織化を推進していきたい」と話しています。

福祉憲章

私たちが住む大牟田を、さらに住みよい町にすることはすべての市民の願いです。私たちは、互いに支えあい福祉の心をはぐくみ、市民が連帯して、誰もが幸せに生活できる住みよい町をさすくため、この憲章を定めます。

- 一、思いやり、助けあいの心を大切にしましょう。
 - 一、みずからの責任を自覚し、福祉向上に努めましょう。
 - 一、ボランティア活動を高めましょう。
 - 一、みんなの協力と参加でよりよい地域をつくりましょう。
 - 一、みんなが等しく、幸せに暮らせる町にしましょう。
- 大牟田市社会福祉協議会
大牟田市社協
「社協だより」
第23号 平成元年1月30日

**歌声とさわやかな汗
久留米パラリンピック**

「身障者も健常者も一緒に汗を流す」第16回久留米パラリンピックⅡ写真Ⅱは体育の日10月10日、久留米総合スポーツセンター・陸上競技場(東楯原町)と市総合福祉会館(長門石1丁目)で開催されました。今年から身障者に限り、だれでも参加できるようになり、約100人が参加してさわやかな汗を流しました。同大会は、身障者の体力向上と親睦、地域の人たちとの交流と理解を深めようと、市と市身体障害者福祉協会などで構成された実行委員会が企画して行われました。陸上競技場では取組競争、パン食い競争、カネの音をたよりに走る音響走など盛りだくさんのプログラム。取組競争には健常者も自由参加して操作の難しさを体験しました。



久留米市社協「くるめ福祉」第53号 平成元年11月

人権週間・12月4日～10日

「人」として

すべての人間は生まれながら自由で尊厳と権利について平等である人間は理想と良心を授けられており同胞の精神をもって互いに行動しなければならない(世界人権宣言・第1条)

期間中の町の主な行事

- 映画会と講演
 - とき-12月5日(火) 午後1時30分～4時
 - ところ-改善センター
 - 映画会-木枯しの向こうに
 - 講演-「人権週間によせて」篠栗二の寺住職・桐生公俊氏
- 特設人権相談所
 - 人権にかかわるいろいろな問題や悩みなど、お困りの方は気軽にご相談ください。相談は無料です。
 - とき-12月7日(木) 午前10時～午後3時
 - ところ-役場第4会議室(2階)
 - 相談員-人権擁護委員

その「人権」を
見つめるために...

12
DEC.
1989
No. 172